

グローバル・テック、EV向け電池の試験センター増設

2023/10/19 19:55 日本経済新聞電子版 594文字

電気自動車（EV）向けリチウムイオン電池の受託試験を手掛けるグローバル・テック（大阪市）は、試験センターを兵庫県加東市に増設する。総投資額は約50億円。同市内の別の場所に稼働中の試験場があるが、増設によって能力を約2倍に引き上げニーズの拡大に対応する。

加東市内の約2万6400平方メートルの土地と3棟の建屋を購入した。1棟は改築して試験を始めており、別の1棟は2024年から本格稼働する予定。残る1棟は電池メーカーや自動車メーカーのニーズをみながら用途を検討する。

性能評価試験は特殊な環境下で充放電を繰り返し、電池の性能や耐久性を調べる。増設するセンターには次世代車載電池として期待される全固体電池など新しい電池の試験スペースも設ける。

敷地内に新たな建屋を設け、電池の最小構成単位である「セル」を対象にどのような条件で燃焼するかを確認する安全性試験も6月から始めた。セルを一定規模に組み上げた「モジュール」の安全性試験を実施する建屋も建設中で、24年1月から稼働する予定だ。

センターにはヘリポートも整備し、トラブルが起きた電池をすぐに確認したい場合はヘリコプターで輸送できるようにした。

グローバル・テックは15年から2次電池を評価する受託業務を始めた。今年2月にはドイツに現地法人を設立し、欧州圏内の車載電池市場の動向調査を開始。今後は電池評価試験装置の販売や受託試験業務も手掛ける予定だ。



グローバル・テックが増設した試験センター（兵庫県加東市）



専用の装置内で充放電を繰り返し、電池の性能や耐久性を調べる

許諾番号30097483 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.